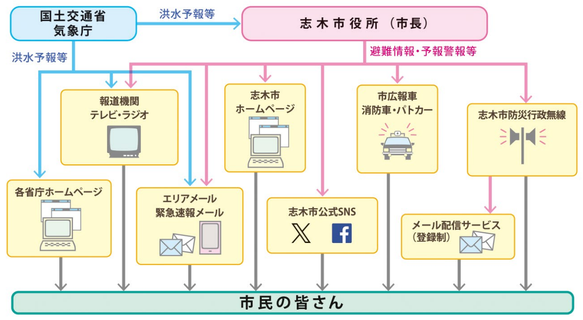
◆情報の伝達経路と収集



◆気象情報等のありか

●気象庁
防災気象情報を入手できます。
https://www.jma.go.jp/jma/index.html

●荒川上流河川事務所（国土交通省）
水位情報や荒川のライブ映像を入手できます。
https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/

https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/i/
（携帯サイト）

●国土交通省　川の防災情報
雨量情報や河川水位情報を入手できます。
https://www.river.go.jp/portal/?region=80&contents=multi

https://www.river.go.jp/index
（スマホ版）

●埼玉県　川の防災情報
埼玉県の雨量情報や河川水位情報を入手できます。
https://www.pref.saitama.lg.jp/a1007/kawanobousai.html

●埼玉県内の雨量、河川水位情報（埼玉県）
埼玉県の雨量情報や河川水位情報を入手できます。
https://suibo-river.pref.saitama.lg.jp

●荒川水系洪水浸水想定区域（荒川上流河川事務所）
荒川の浸水想定区域を入手できます。
https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/arajo_index038.html

◆メール配信サービス

緊急情報や新着情報などを携帯メールで配信しています。

《メール配信登録方法》
1.次のいずれかの方法で登録画面にアクセス
　1.下記アドレスからアクセス
　http://mobile.city.shiki.lg.jp/index.cgi?page=391&
　2.QRコードからアクセス

2.「登録方法」をクリック
3.登録画面の「メール配信登録」をクリックして空メールを送信
4.携帯電話にURLが記載された登録用メールが届きます
URLに接続し、配信を希望するメールの種類にチェックを入れて、登録してください

◆エリアメール・緊急速報メール

市では、災害時に市内にいる方々に的確な情報を広く周知するため、携帯電話会社が提供する「エリアメール」・「緊急速報メール」の配信を行っています。
●エリアメール・緊急速報メールとは
国、地方公共団体が発信源となり、携帯電話会社が持つ回線を用い、特定エリアにいる携帯電話利用者に向け、避難勧告・避難指示などの緊急情報をメールで伝える方法です。

株式会社 NTTドコモ　緊急速報「エリアメール」
au(KDDI株式会社)　緊急速報メール
ソフトバンクモバイル株式会社　緊急速報メール
楽天モバイル株式会社　緊急速報メール

◆警報等の種類

気象庁は、大雨や強風などの気象現象によって災害が起こるおそれのあるときに「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときに「警報」を、数十年に一度の大雨などが予想される場合に「特別警報」を発表して、注意や警戒を呼びかけます。

種類		予想される災害
注意報	大雨注意報	浸水被害や土砂災害が発生するおそれのあるときなど
	洪水注意報	河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害のおそれのあるとき
警報	大雨警報	重大な浸水被害や土砂災害が発生するおそれのあるときなど
	洪水警報	河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害のおそれのあるとき
記録的短時間大雨情報		数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測・解析したとき
特別警報		警報の発表基準をはるかに超える豪雨等異常な現象が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に発表します。「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。

＊土砂災害警戒情報……大雨警報（土砂災害）の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難勧告の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

◆避難情報について

情報は防災行政無線・防災メール・テレビ・ラジオ・ホームページなどでお知らせします。避難情報が発令されたら下記のような行動をとりましょう。

警戒レベルと取るべき行動

警戒レベル	避難情報等	取るべき行動
警戒レベル5	緊急安全確保	災害が発生または今にも発生しそうな状況です。命の危険があります。少しでも崖から離れた場所へ避難しましょう。
〈警戒レベル4までに必ず避難！〉		
警戒レベル4 全員避難	避難指示	災害のおそれが高い状況です。危険な場所から全員、速やかに避難しましょう。
警戒レベル3 高齢者等は避難	高齢者等避難	災害のおそれがあります。避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
警戒レベル2	大雨・洪水・高潮注意報	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。
警戒レベル1	早期注意情報	災害への心構えを高めましょう。

気象情報
避難の目安となる情報です

警戒レベル5 相当情報
氾濫発生情報
大雨特別警報　等

警戒レベル4 相当情報
氾濫危険情報
土砂災害警戒情報等

警戒レベル3 相当情報
氾濫警戒情報
大雨・洪水警報　等

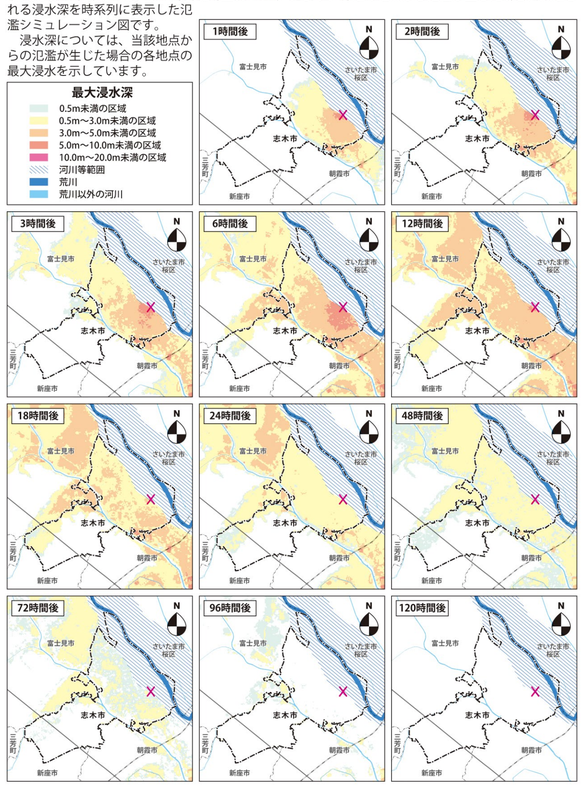
※各種の情報は、警戒レベル１～５の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

「特別警報」が発表されたら、以下のようなメッセージを伴う警報が発せられます。
・経験したことのないような異常な現象が起きそうな状況です。ただちに命を守る行動をとってください。
・この数十年間災害が無い地域でも、災害の可能性が高まっています。油断しないでください。

「特別警報」が発表されないからといって安心することは禁物です。
特別警報の運用開始以降も、警報や注意報は、これまでどおり発表されます。大雨等においては、時間を追って段階的に発表される気象情報、注意報、警報を活用して、早め早めの行動をとることが大切です。

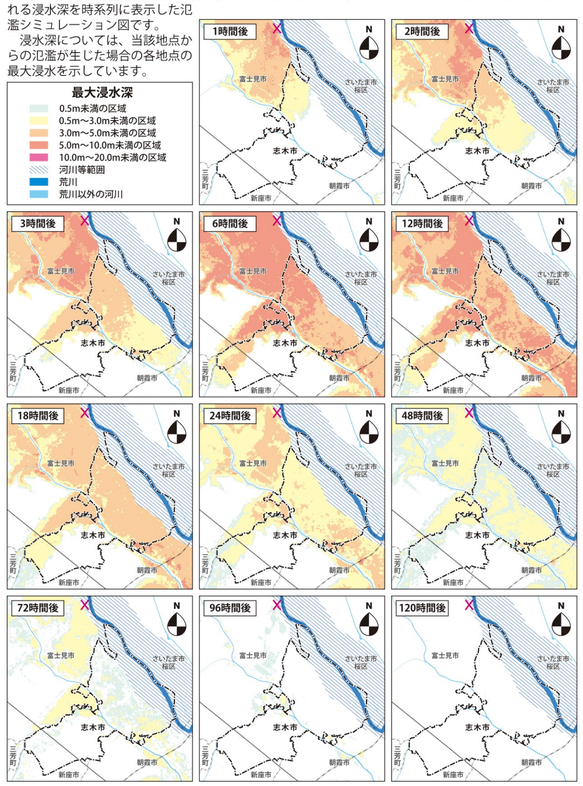
◆洪水氾濫シミュレーションマップ（荒川右岸35.2km地点）

この図は荒川水系荒川及び入間川流域の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された想定最大規模降雨（荒川流域の72時間総雨量632mm）により、特定の地点から氾濫が生じた場合に想定される浸水深を時系列に表示した氾濫シミュレーション図です。
浸水深については、当該地点からの氾濫が生じた場合の各地点の最大浸水を示しています。

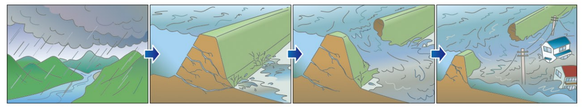


◆洪水氾濫シミュレーションマップ（荒川右岸38.8km地点）

この図は荒川水系荒川及び入間川流域の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された想定最大規模降雨（荒川流域の72時間総雨量632mm）により、特定の地点から氾濫が生じた場合に想定される浸水深を時系列に表示した氾濫シミュレーション図です。
浸水深については、当該地点からの氾濫が生じた場合の各地点の最大浸水を示しています。



◆水害発生メカニズム（洪水）



大雨によって川の水が増え、水かさが上がり始めます。

堤防いっぱいまで水が増えると、堤防に水の圧力がかかり始めます。

水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。

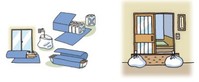
崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

◆水害に備えた事前の心構え

●家のまわりを点検・整備
家の前の排水溝が詰まっていないかの確認や風で吹き飛ばされる物の撤去等が必要です。

●二人以上の避難を
避難するときは２人以上で、隣近所への声かけをしましょう。

●家庭でできる簡易水防
浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入を減少させることができます。
大きめのゴミ袋やポリタンク等に水を入れて、水の侵入口となるところに並べます。
プランターをつなげて水の侵入口となるところに並べます。
長めの板と土嚢で臨時の止水板を作ります。



●特に防災上の配慮を要する者の避難支援
高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に防災上の配慮を要する者へは、迅速な情報提供により早めの避難を促すことが必要です。そのため特に防災上の配慮を要する者や避難支援者等への情報伝達方法等を記載しておきましょう。

◆避難時危険箇所

大雨が降った時道路の側溝がつまったり、道路の低くなっているところや道路等の下をくぐる立体交差点（地下道・半地下道）に水がたまったりしても危険な浸水となります。避難路にこのような場所がないか確認してみましょう。

・道路や鉄道の下をくぐる地下道・半地下道には水がたまり通行できなくなります。
・地下道・半地下道他、周辺よりも低くなっている道路も水がたまり通行できなくなります。

◆水害発生時における避難時の心得

●動きやすい格好で、集団での避難
持ち物はリュックで、手は自由に、長靴よりひも付き運動靴で避難しましょう。避難するときは、隣近所・自主防災組織内で声をかけ合って二人以上で避難しましょう。

●安全な避難路の確認を
避難場所等までの経路は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。

●正確な情報と早めの避難を
テレビ、ラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。危険を感じたら早めの避難をしましょう。

●車での避難は控えましょう
自動車での避難は、水深が深い場所へ進入して動けなくなる、川沿いの道路で川に転落する、渋滞が発生し進めなくなる、水につかるとドアが開かなくなるなど、大変危険です。また、緊急車両の妨げになったり、走行時に発生する波が歩いて避難する人への妨げとなったりします。特別の場合を除きやめましょう。

●氾濫水は勢いが強い
氾濫水は勢いが強く、水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難です。そのため浸水が始まった後に移動することは大変危険です。避難のための十分な時間を確保できない場合や想定される浸水深が浅い場合には、無理に避難所へ向かうのではなく自宅の上層階や近隣の安全な高い堅牢な建物にとどまることも選択肢の一つです。

●氾濫水は濁っています
氾濫水（特に洪水）は茶色く濁っており、水面下では道路や側溝などの境目が見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、杖などで安全を確認しながら歩きましょう。自宅のまわりが浸水していなくても避難する途中の道路などが浸水している場合もあるので、注意してください。

◆備蓄品リスト、防災チェックリスト

市では、市内８小学校の備蓄倉庫に、備蓄食糧のほか、生活に必要な物資や救助に必要な資機材を保管しています。
しかし、地震の大きさや被災地域の状況・大雨による浸水被害の状況等によっては、輸送、供給体制に影響がでる事が予想されます。各家庭でも家族が最低３日間（推奨１週間）過ごせる分として、食べ物、飲み水や生活に必要な物を用意しておきましょう。
また、すぐに逃げなければならない時に備えて、非常持ち出し品として、ひとまとめにして保管しておきましょう。

●備蓄倉庫備蓄品リスト（抜粋）

備蓄食糧（アルファ米・粉ミルク・乾燥がゆ）
飲料水（受水槽改修・ミネラルウォーター）
備蓄資材（照明セット・簡易トイレ・障がい者用簡易トイレ・リヤカー・テント等）
備蓄日用品（毛布・タオル・石ケン・使い捨て下着・ティッシュペーパー・トイレットペーパー等）

●防災チェックリスト

《水・食料》	保存の水（500mlペットボトル）
	缶詰
	インスタント、レトルト食品
	チョコレート
	粉ミルク
	乾パン
	乾燥がゆ
	アルファ米
	買い置きの食料
《炊飯・給水》	ライター、マッチ
	固形燃料
	携帯用コンロ（カセットコンロ）
	缶切り
	食器（割れないもの）
	ラップ
	飲料水用ペットボトル
	携帯用浄水器
《備品》	懐中電灯
	ろうそく
	携帯ラジオ
	電池
	多機能ナイフ
	救急セット
	常備薬
	おくすり手帳
	タオル
	洗面用具
	トイレットペーパー
	ウェットティッシュ
	裁縫道具
	ロープ

《備品》	ポリ袋、ビニール袋
	防水（レジャー）シート
	リュックサック（バックパック）
	バケツ
	消火器
	携帯トイレ
	哺乳瓶などの乳児用品
《衣類など》	下着、靴下
	手袋（軍手など）
	帽子、ヘルメット
	雨具（カッパなど）
	マスク
	携帯用カイロ
	毛布（寝袋）
	靴、長靴
《貴重品》	現金、小銭
	預金通帳
	印鑑
	保険証
	身分を証明する書類（免許証など）
	権利証
	生命保険証書
《その他》	笛（脱出合図用）
	携帯電話
	防災カード
	地図
	連絡先一覧
	スコップ
	バール
	ノコギリ

○ 使いながら備蓄する「ローリングストック法」
特定の非常食だけを長期間ストックするのではなく、定期的に備蓄した食品を食べて、食べた分を買い足していく方法です。
災害用保存食ばかりでなく、缶詰やレトルト食品などの消費期限が１年程度のものでも非常用の備蓄品として保存できます。普段から食べているものが災害時の食卓に並ぶので、普段食べ慣れない非常食よりも、多くの人が安心して食事をとることができます。

◆地下施設の危険性

地下施設は閉鎖的な空間で外の様子が分かりにくく、万が一、水が流れ込み始めると流れてくる水に逆らって避難するのは困難ですし、扉が閉まっていたら開けることは出来ません。洪水時の地下施設は非常に危険です。異常に気付いた時、避難の呼びかけがあった時はすぐ避難しましょう。

・地下室では外の様子が分かりません。
・地下室に入ると水圧でドアが開かなくなります。
・浸水すると電灯が消えます。また、エレベーターも使えません。
・地下室に一気に流れ込み階段を登れません。

◆過去の水害

●明治43年の洪水（宗岡全戸水没）

当時の宗岡村の被害

【耕作地】　全村230町歩の米作無収穫、150町歩の秋作物が全部腐敗。
　　※1町歩＝9,900㎡
【家屋】　流出33戸、倒壊（住家）48棟・（納屋）46棟
　　※明治39年の宗岡村（戸数と人口）356戸・2,233人
【貯蔵穀類】　米・玄米1,000俵、大麦2,000俵
【最高水位】　標高8.195メートル（志木市郷土資料館の敷地に表示有）
　　※現在の宗岡地区の標高は4m～6m。
（参考文献）「志木市史」「水害と志木」

◆災害用伝言ダイヤル、災害用伝言板

●災害時に家族と連絡がとれない場合は？

災害用伝言ダイヤル171

災害時には電話が混雑し、家族と連絡がとれないことがあります。そんなときには「171」をダイヤルし、利用案内に従って伝言の録音・再生をおこなってください。利用の開始や録音件数など、利用条件についてはNTTが決定し、テレビ・ラジオなどを通じて、お知らせします。　※一般電話・公衆電話・携帯電話から利用できます。

録音方法	再生方法
171	171
案内放送が流れます。	案内放送が流れます。
1	2
＊1 被災地の電話番号または携帯番号（例）03（一般電話の場合市外局番が必要）	＊1 被災地の電話番号または携帯番号（例）03（一般電話の場合市外局番が必要）

体験利用日　毎月1日、15日　0時～24時
正月三が日（1月1日0時～1月3日24時）
防災週間（8月30日9時～9月5日17時）
防災とボランティア週間（1月15日9時～1月21日17時）

＊1
連絡を取りたい被災地の一般電話地域が被災指定を受けていない場合は登録できません。携帯電話については地域に関係なく利用できます。

災害用伝言板（Web171等）

大規模災害等が発生した時に、携帯・スマホ・パソコン等を利用して伝言の登録・確認ができる伝言板です。

・NTT東日本 …… https://www.web171.jp/
・NTTdocomo …… http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
・au (KDDI) …… http://dengon.ezweb.ne.jp/
・SoftBank …… http://dengon.softbank.ne.jp/
・楽天モバイル …… https://public-safety.mobile.rakuten.co.jp/

登録方法	確認方法
それぞれのアクセス先のメニューに従って入力を行ってください	それぞれのアクセス先のメニューに従って確認を行ってください
❶ メニューに表示される「災害用伝言板」を選択	❶ メニューに表示される「災害用伝言板」を選択
❷ 「登録」を選択	❷ 「確認」を選択
❸ 「無事です」等の状態の選択と100字以内のコメントを入力	❸ 安否を確認したい人の携帯電話番号を入力
❹ 「登録」を押して完了	❹ 「検索」を押して完了を確認